

教員の魅力を早い時期から知ってもらうために

—高校生に対する教員の魅力を伝える出前授業の実施を通して—

茨城県教育研修センター教職教育課 牧野 健次郎

Measures to appeal good points of teacher's job to high school students

—the high school visits of teacher's consultant—

MAKINO Kenjiro

【要旨】

教員の仕事は長時間労働といったブラックのイメージがある中で進路決定前の高校生に教員の魅力を伝える必要があると考え本事業を企画した。今年度、5校を対象に実施した取組について紹介する。

1 ねらい

茨城県公立学校教員選考の倍率は2年連続で増加はしているが、他県や民間企業などとの間で人材確保競争は激しくなっている。高校生や大学生に学校の先生のイメージを聞き取ると「忙しそう」「ブラックなイメージ」「土日もなく働いている」といった声が聞かれる。その原因の一つとして我々教員が、教員の仕事の楽しさ、魅力を子どもたちに語ってこなかったことがあると考える。そこで進路選択の際に教員への道を考えるきっかけを提供するため、本事業を企画した。

2 実施までの経緯

茨城県教育研修センターでは、大学生に向けた教師塾のPRを兼ねて県内外の大学の教員養成学部で、教員の魅力を伝える授業を行ってきた。そこでは「教員を目指して大学に入ったがあまり良いイメージがなくて意欲が低くなっていた。しかし今日のお話を聞いてやっぱり先生になりたい気持ちが高まった」などの感想が聞かれるなど教員の魅力が伝わった手ごかりを得ることができた。しかし、大学生への働きかけだけでは、すでに教員を志望して教職課程をとっている人にしか関わることができない。そこで、大学を選ぶ前の高校生に、教員の魅力を伝えるために、指導主事による出前授業を行うこととした。

令和4年10月、本事業開催のための文書を県内全ての公立高等学校、中等教育学校に発出した。また、既に年度の後半で学校にとって計画に組み込みにくい時期だったため、地区別校長会で呼びかけを行ったり、学校長あてのメールで通知を行ったりして繰り返し周知を図った。そうしたところ5校の高等学校から申し込みを受けることができた。

1校平均46.7名の参加者があり予想以上に教員の仕事に関心を持っている生徒がいることが分かった。中には教員以外の仕事、教育系ではない大学への進学を考えているが少

し興味があって授業を受けに来たという生徒もいた。そのような生徒に教員の仕事の魅力を伝え、仲間となって共に働けるように進路選択をしてもらうのが大きな目標となった。

3 実施校と参加者数

令和4年度実施校一覧（対象はすべて高校1、2年生の希望者）

学校名	実施日	人数
県立日立第一高等学校	令和4年12月2日	43人
県立日立北高等学校	令和5年2月7日	32人
県立下館第二高等学校	令和5年2月10日	43人
県立水戸桜ノ牧高等学校	令和5年2月14日	83人
県立鉾田第一高等学校	令和5年3月15日	52人

4 出前授業の実際

- (1) 教員の仕事に興味を持ったきっかけ、どのような先生になりたいのかを考える
今までの自分を振り返り、きっかけや理想の教師像を記述することで、本授業の動機づけを行った。また、茨城県が示している求める教師像を共有した。
- (2) 教員として働くために必要なこと
高校生にとっては意外と知る機会のない資格や採用について具体例を挙げて説明をした。
 - ① 教員免許状の取得
教員免許状の種類、取得方法、取得後に他県でも通用することなど、詳しく伝えた。また、実際の教員免許状を見てもらい、実感を伴った理解ができるように工夫した。
 - ② 教員採用試験
教諭として働くためには各都道府県の行う教員採用試験に合格する必要がある、その関門を突破することで教諭として学校で働くことができるようになることを伝えた。
- (3) 給料について調べてみよう
ファーストフード店でのバイト代や、県庁職員・銀行員・教員の初任給についてスマートフォン等を活用して生徒に調べてもらった。教員という仕事を給料という側面から考えることは新鮮であったようである。
- (4) 教員の働き方改革、茨城県の人事交流制度について知ろう
今教育界で行われている働き方改革について示し、教員を取り巻く環境は徐々に改善されていることを説明した。公私ともに充実し元気な先生が増えることで児童生徒の学校生活の充実につながることを伝えた。また、小中学校間での人事異動があることは茨城県の特徴的な取組であることも伝えた。

(5) 教員の福利厚生について知ろう

年次休暇、その他の休暇について具体的な数字を示して伝えた。その他の福利厚生についても具体的な例を示して話をした。

(6) 教員の魅力について知ろう

教員の仕事の魅力を経済的な安定、社会的な信用、子供たちとの関わり、子供たちはもちろん、教員自身も日々成長できる仕事である等様々な視点から伝えた。特に子供たちと関わることで得られる喜び、子供たちの成長を感じたときの充実感などについて、自分の体験を交えたり高校の先生にもインタビューしたりしながら具体的な話をした。



5 生徒の反応

受講した生徒はとても熱心な様子で話に耳を傾けたり、教員の仕事や教師像などについて調べたりする姿が見られた。以下に実際の高校生の感想を記す。

- 高校生が普段生活している状況では知ることのできない内容（勤務体系や給与など）について詳しく知ることができた。
- 実際の教員免許状を見せてもらうことでよりリアルに教員を捉えることができた。
- 教員を目指すにあたって、今日の講座で得た知識は進路選択の上でもとても参考になった。気になっていたことが知れてよかった。
- 教員を目指していたが様々な理由からあきらめようと考えていたが、今日この話を聞いて絶対にこの職業に就きたいと考えなおすことができました。これからもあきらめずに勉学に励み、将来教壇に立てるように頑張ります。
- 今日は、実体験などを含んだ、リアルな先生についての話が聞けてとても楽しかったし、興味がわきました。今日お話をいただいた先生のような先生になりたいと思いました。
- インターネットで調べた先生像より、お話を聞いてイメージした先生像の方がはるか

に良く、生の声を聞くことでより良い点がはっきり見えてきました。職業選択をするときに選ぶきっかけのできるお話を聞けて本当によかったです。

○先生の仕事は本当にやりがいのある仕事だと思いました。自分の人生を通してたくさんの人とこんなに深く関われる仕事は教師が一番だと思いました。なんとなくずっと教師いいなくらいだったけれど、教師になりたいと確信しました。

○元々、教師になることを目指していたが、今回の講義を聞いて、これまで以上に「教師になりたい！」という思いが強くなりました。教師という仕事の魅力や苦労を楽しく聞けて良かったです。

6 成果と課題

(1) 成果

生徒たちはとても意欲的に教員の仕事について知ろうという姿勢が見えていた。また授業後の生徒の感想を見ると好意的なものばかりであった。最近の報道等から感じていた「ブラック」というイメージを変え、改めて教員の仕事について理解し、職業選択の一つとして考えてもらえたようである。新聞社2社からも取材していただき、この事業をより知ってもらうことができた。

また、若手の教員が出前授業を参観してくれた学校があった。授業後にその若手の教員からは「生徒対象の授業を参観させてもらいましたが私たち教員の背中を押してもらえそうな内容でした。こんな魅力的な仕事に就いていることを改めて実感できて明日から頑張ろうって思えました」という感想をいただけた。

(2) 課題

文書発出が10月になってしまい、高等学校の予定にこの事業を組み込むのが難しかった。その反省を生かして令和5年度に向けて令和4年度中に募集の文書を発出して高等学校の年間指導計画に組み込んでもらおうと考えている。

また、一方的な説明ではなく対話をしながら進めていくことでより教員の魅力が伝わると考えられるため、授業の方法も少しずつブラッシュアップしていく必要がある。

茨城県立〇〇高等学校

教員の魅力

教職に興味のある皆さんへ

茨城県教育研修センター 教職教育課

あなたが教員に興味を持った
きっかけを教えてください。

あなたはどのような教師になりたいと思いますか。

茨城県の求める教師像

- 教育者としての資質能力に優れた、教師。
- 使命感に燃え、やる気と情熱をもって教育にあたることができる教師。
- 広い教養を身に付け、子どもとともに積極的に教育活動のできる教師
- 子どもが好きで、子どもとともに考え、教師。
- 心身ともに健康で、教師。

教員になるために必要なこと



教員の種類
幼稚園教諭
小学校教諭
中学校教諭
高等学校教諭
特別支援学校教諭
養護教諭
栄養教諭
実習助手



それぞれに異なる免許が必要

どの大学で取得できるかを調べて進学先を選ぶ必要がある

※後から通信教育等で取得することも可

教員免許状

茨城県教育委員会から教員免許状を授与された人が栃木県に引っ越しました。栃木県で教員として働けるでしょうか。

働ける

働けない

教員になるために必要なこと

採用試験

公立学校の常勤の教員となるためには、教員免許状を取得済み又は取得見込みの状態で、各都道府県・指定都市教育委員会が行う教員採用選考試験に合格することが必要となります。

採用試験を受験しなくても期限付任用での常勤講師や、非常勤講師として採用されることもできます。

教員の働き方改革

目標 超過勤務45時間/月を超える者の割合0%（令和4年度末）

- 小学校 事務処理等時間の確保に向けた教育課程の工夫
➡ 専科指導の全校導入、5時間授業の推進
- 中学校 部活動に係る教員の負担軽減
➡ 複数顧問制の適正化、部活動数削減の推進
- 県立学校 勤務時間・部活動・ICT
➡ 時差出勤、完全退勤時間、定時退勤日、複数顧問制、指導案や教材の共有化

教員の働き方改革

① 小学校専科教員の全校配置

- ➡ ○ 専科教員による専門性を生かした高度な授業を児童が受けられる。
- 担任が事務処理の仕事ができる「空き時間」が確保できる。

② 運動部活動複数顧問制の推進

- ➡ ○ 部活動の指導時間を分担できるので、放課後の仕事の時間が確保できる。
- 生徒に関わる教員が増えるので、一人一人の発達の状況に応じた支援ができる。部活動を通して生徒の全人的な発達を支える。

異校種間人事交流

① 小中学校人事交流

茨城県では小学校から中学校へ、中学校から小学校への人事異動ができる。(小中学校の人事交流ができる県は全国的に見ても珍しい)



- 義務教育9年間の児童生徒の発達段階に応じた指導法を身に付けることができる。
- 両方の校種を経験することで自分の適性を知ることができる。
- 人の成長に関わる教育の大切さ、素晴らしさを学ぶ機会に恵まれる。

異校種間人事交流

② 県立高校・特別支援学校等との研修交流

茨城県では小中学校・県立特別支援学校との交流や、小中学校と県立中等教育学校・県立高校附属中学校との交流を行っている。



- 児童生徒の発達の特性を実感的に学び、教員としての専門性を高められる。
- 6歳から18歳の幅広い年齢の教育に関わることができる。

他県等との人事交流

① 福井県との人事交流

全国学力・学習状況調査で全国上位の福井県に小中学校教員を1年間、派遣する。



- 現地の教育実践を研究し、学力向上に向けたリーダーとして活躍する教員を養成する。
- 本県の公立学校教員として在籍しながら、福井県において、1年間、学力向上に向けた実践的な指導法を経験したり、多様な校内研修に参加したりできる。
- 他県の教育に触れることで茨城県の教育のよさを実感できる。

教員の魅力 ～勤務や福利厚生～

勤務日 1日につき**7時間45分**



仕事も休暇も
大切！

きちんと休みが取れる！ 土日・祝日は休み

有給休暇
(年休)

年間**20日**

- ・1日・半日・1時間単位で取れる
- ・1年間の残日数は、**20日**を限度に次年度に繰り越してできる

民間では
法定で**5日**

夏季特別休暇

5日

年末年始休暇

12月29日～1月3日

学校行事
など

休日が
出勤になったら

振替休日
が取れる



教員の魅力 ～勤務や福利厚生～

結婚・出産しても教員を続けられる！



人生の大切な
節目だからこそ、
休暇も充実

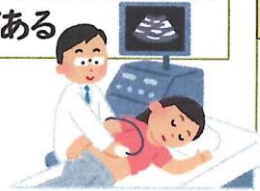
結婚休暇

7日



妊娠中にも…

定期検診、つわり
にも対応した休暇
がある



みんな、
待っててね！



産前・産後休暇

民間では
産前6週間

出産予定日の8週間
出産した日から8週間



学校の先生にはどのような仕事
がありますか。



茨城県の小中学校の先生の日

自家用車で出勤

8:00 職員室内で様々な先生と打ち合わせ

8:10 担任しているクラスに行き朝の会
健康観察が大切 係活動の活発化を

8:30

授業1時間目～4時間目

12:30 給食指導

13:15 清掃指導

13:30 昼休み

13:50

授業5時間目～6時間目

15:10 帰りの会

1日の振り返り 係活動の活性化を

15:30 翌日の授業準備 テストの採点 その他の事務仕事、打ち合わせ、保護者への連絡
中学校では部活動を実施
自家用車で退勤

教員の魅力 その1

公務員として経済的に安定
福利厚生充実（茨城空港、東京ディズニー
リゾート）
社会的に信用されている仕事



教員の魅力 その2

子どもの成長に関われる仕事



教員の魅力 その3

子どもの一生にかかわる責任のある仕事
自分のよさを生かせる仕事



教員の魅力 その4

自分が成長できる。



教員の魅力

教職に興味のある皆さんへ

茨城県教育研修センター 教職教育課